

自ら学ぶ教職員 活動報告書

【グループ名】

実践から学ぶICT活用研究会

【テーマ】

ユニバーサルデザインを取り入れた ICT 活用方法を考え、

特別支援の観点から生徒の理解を深める授業を目指す

取組のポイント・成果

【取組の内容とポイント】

6月22日(火) 第1回 研究会活動 活動内容確認と今後の打ち合わせ

- ・ 困り感を抱えた生徒の様子への把握
- ・ 効果的な支援方法の提案・実施
- ・ ICT を有効的に活用する方法の提案・実施

の3点について教員間で確認。各々の授業内で様々な方法を実施し研究を進めていく。

7月27日(火) 第2回 生徒の困り感と支援方法の提案

①生徒の困り感の共有

→「話す」「聞く」「読む」「書く」「その他」に関して、授業内での生徒の様子を例を挙げる。

《例》・プリント等に文字を書こうとしない。

(識字によるもの、感情を言葉で表現することが苦手)

- ・ 音読などで文字を読むことが苦手。

(識字によるもの、日本語が分からない、漢字が分からない)

②生徒への支援方法を考える

→ICT 機器を活用し、生徒の困り感を支援することはできないか？

《例》・書くことが苦手な生徒はタブレットの打ち込みであれば活動できる。

- ・ デジタル教材や読み上げ教材、文字を追いながら読む教材の導入
- ・ 実際に手を動かして学習内容が確認できるような教材の工夫

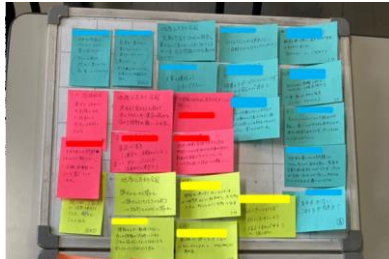
→評価方法の工夫をすることで生徒の関心・意欲を起すことはできないか？

《例》・本時の目標だけでなく、各個人の今日の授業で頑張る目標を設定させる

- ・ 各授業の振り返りで、自分自身が設定した目標に対しても自己評価させる

- ・ 正解、不正解に関わらず、生徒がどのくらい取り組んだか等の取組度の評価を組み込む

(前回からの伸び、書き込んだ考えの量)



9月～12月 実践活動期間

7月の勉強会で共有した生徒の様子や、支援方法として提案されたことを自身の授業内で実践し、その効果や有効性等について確認する。

12月24日(金) 第3回 実践報告資料作成

各々の活動内容をレポート用紙にまとめ、報告する。

1月6日(木) 第4回 全体でのまとめ・今後の課題確認

国語科

- ・国語表現での MetaMoJiClassRoom 活用による活動参加率、考査での得点率の向上。
- ・振り返り時の自己評価欄の追加による生徒の活動意識につながった。

地歴公民科

- ・プリント学習とタブレットによる学習の併用。
- ・英語表記による、日本語が苦手な生徒に対する支援。

数学科

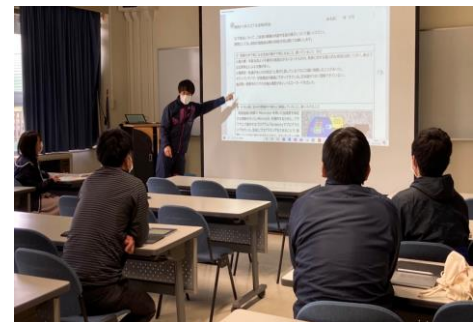
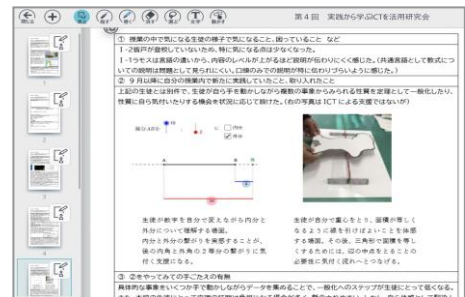
- ・重心、内分、外分、円周率など実際に手を動かして調査することで理解を深める。(デジタル教材の活用)

理科

- ・説明も簡単で生徒も理解しやすく、プログラミングに興味を持つ生徒が多かった。
- ・MetaMoJiClassRoom は話すことが苦手な生徒も交流が可能となり、効果的だった。

商業科

- ・スタディサプリを活用し、動画を積極的に見せることで生徒の理解度が上がり、自分の言葉でまとめを書ける生徒が増えた。



今後の課題

【今後の課題】

・タブレットを活用する場面の見極め

「画面を見続けるのは目が疲れる。」「プリントの方が記憶に残りやすいし理解もしやすい。」など、生徒は意外にプリントでの学習を好んでいる。MetaMoJiClassRoom をはじめ、タブレットや ICT 機器を使う場合は、その意図と有効性をよく考えたうえで活用していくことが大切である。

・外国にルーツを持つ生徒の支援をどうするか

国語など、文章を読んだり書いたりする活動が多い科目では生徒が日本語を読むことができず、学習内容の理解以前に意欲・関心が持てずにいる。多言語への変換機能を持つポケットークの導入や、支援を充実させていかなければならない。

【還元方法】

- ・チームズや会議等での活動報告による校内周知
- ・課題と挙げた内容、報告会で出た改善案を実施し、生徒への支援につなげていく